

# 柏市役所レポート



柏市役所

2020年1月6日、チームメンバーのうち2名が、柏市役所を訪問しました。お忙しい中、ご対応いただきありがとうございました。この場を借りまして御礼申し上げます。

柏の葉スマートシティは、千葉県柏市にあり、つくばエクスプレス（TX）の柏の葉キャンパス駅を中心に、住宅や商業施設、公共施設、大学等が立地しており、スマートシティの先進的な取り組みの事例として、注目を浴びています。この柏の葉スマートシティは「公・民・学」の連携をベースとされていますが、この「公」にあたる柏市役所のご担当者の方へお話を伺いました。



つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅周辺

**Q：柏の葉地区になぜ、スマートシティを設置することになったのか、場所の選定における経緯等がありますでしょうか。**

A： 柏の葉のまちづくりは、2005年に常磐線の混雑緩和や首都圏の宅地供給などを目的に開通しつくばエクスプレス沿線のまちづくりであり、この柏の葉においては272haを対象とした土地区画整理事業を現在も進めています。2006年に柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）という公・民・学が連携する組織を立ち上げ、社会課題をまちづくりを通して解決することを掲げ、様々な取り組みを実践してきました。

スマートシティという概念が当初からあったわけではありません。そのためスマートシティを設置するためにまちづくりを進めてきたのではなく、まちづくりを進めた結果、スマートシティと呼ばれるようになったという事です。

国土交通省では、超スマート社会と言われる「Society5.0」の実現を目指し、人工知能（AI）やIoT等の新技術やビッグデータなどの先進的技術を活かして、都市や地域が抱える課題を解決することを「スマートシティ」と定義しています。

**Q：まちづくりの過程で市として努力した点、苦勞した点はありますか。**

A： 柏の葉に限定の話ではないですが、今までのまちづくりというのは、行政が計画を立てて公共事業として進めてきました。しかし、そういったまちづくりは、行政の一方的な進め方であるため、持続性がないなどの問題があり、様々な利害関係者と、話し合いや知識などによる連携をしないと、まちづくりを進めることは難しい時代になっていると思います。

柏の葉においては公・民・学の連携によりまちづくりを進めていますが、構成員の1団体として、行政としての役割を果たしていくことが重要なのではないかと思います。

課題としては、今までも柏の葉では様々な実証実験を行ってきましたが、今後はそれを実装につなげていくことです。そのため、市民、住民、ユーザーとの関係性もますます重要になると考えています。

**Q：市としてはどういった取り組みをしているのですか。**

A： 市では、柏の葉で行われる取り組みに対して、行政計画や事業との整合性の確認、国の機関や千葉県との調整・手続きなどを行っています。また、UDCKの運営自体は、構成団体の持ち寄りにより担われており、柏市からはディレクターとしての職員派遣や運営に係る費用の一部を負担しています。

**Q：他に比べて、柏の葉スマートシティがここだけは負けないという点はありますか。**

A： やはり、実践的な公・民・学の連携という仕組みは、全国的にはまだ少なく、この仕組みが柏の葉のまちづくりの骨格だと思っています。また柏の葉では、日本有数のデベロッパーである三井不動産という民間企業が参画して、かつ東京大学や千葉大学といった大学があるということは、他にはない強みだと思います。

Q：今後、柏の葉スマートシティでは、こういった取り組みが行われていくのでしょうか。

A： 柏の葉キャンパス駅2km 圏内には、大学や病院など様々な施設が分散立地していますが、そういった施設と駅、施設間のアクセス強化、今後更に開発が進められる過程における環境負荷の低減、あらゆる住民の生涯健康であることの維持といった事を進めていく予定です。

駅を中心として集まってくる様々なデータを活用して、市民生活の向上につながるような新産業が創出できればいいと思っています。

#### まとめ

- ・ 柏の葉は、まちづくりを通して社会課題の解決を目指しており、その過程において、スマートシティと呼ばれるようになった。
- ・ 柏の葉は、UDCK という組織を中心とした「公・民・学」が連携している、日本国内でも有数の事例である。
- ・ 今後は、AI や IoT 等の最先端技術を活用したまちづくりが更に進められていく。

（ 掲載の内容は、2020年1月当時の内容です。  
掲載している内容は、市の担当者の方に答えたいいただいたものを、サイト製作者側でまとめたものです。）